

Hokkaido University News

北大時報

平成25年

2

No. 707 February 2013

本学職員表彰を実施 北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・過半数代表候補者の決定





平成24年度ハラスメント講演会



プロジェクトマネージャー育成講座

1 国立大学法人評価について

■ 全学ニュース

- 2 本学職員表彰を実施
- 2 AO入試合格者の発表
- 3 北海道大学一般入試の志願状況
- 4 「平成24年度ハラスメント講演会」を開催
- 4 平成24年度一般会計経済危機対応・地域活性化予備費（本学関係分）の主要事項, 平成24年度補正予算（第1号）案（本学関係分）の主要事項
- 6 平成25年度予算政府案（本学関係分）の主要事項
- 8 第8回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催
- 9 「若手人材育成シンポジウム “シンフォスター 2013”」の開催
- 10 北大フロンティア基金
- 11 企業研究セミナーを開催
- 12 プロジェクトマネージャー育成講座を開講
- 13 「食と健康」研究会・部会を開催

■ 部局ニュース

- 14 獣医学部で北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程開講記念式典を挙げる
- 15 環境科学院・地球環境科学研究院がユタ大学大学院・ナノ研究所と部局間交流協定を締結
- 16 スラブ研究センターが新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」総括シンポジウムを開催
- 17 薬学研究院, 医学研究科, 教育学研究院の主催で, ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業シンポジウム「心のいたみ・お腹のいたみ」を開催
- 18 教育学研究院が研修会「障害学生支援における基本理念と組織づくり」を開催
- 18 経済学研究科で“学生の起業への意識を変革する！サムライインキュバート×北海道大学「起業マインド向上講座」」を開催
- 19 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
- 20 第10回 脳科学研究教育センターシンポジウム「脳機能イメージング-fMRIで何がわかるか」を開催

- 21 真冬の森の宝物, 見つけた！
—雨龍研究林で「森のたんけん隊2013冬」を開催—
- 22 「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」を開催
- 23 大学文書館で日下大器関係資料を再受贈
- 24 大学文書館で東見氏撮影写真を受贈

■ 同窓会との交流

- 25 恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」

■ お知らせ

- 26 過半数代表候補者の決定

■ レクリエーション

- 26 教職員テニス大会の開催

■ 諸会議の開催状況 28

■ 学内規程 28

■ 研修

- 29 平成24年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）

■ 表敬訪問 29

■ 人事 30

■ 訃報

- 31 名誉教授 村尾 誠 氏
- 31 名誉教授 有田 隆一 氏
- 32 名誉教授 山岡 勲 氏
- 32 名誉教授 鈴木 翼 氏



獣医学部で
北大・畜産大共同獣医学課程開講記念式典



スラブ研究センター
「ユーラシア地域大国の比較研究」総括シンポジウム



「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」



大学文書館で東見氏撮影写真受贈
工学部（1959年2月）

表紙：「森のたんけん隊2013冬」（2013.1.10・11）

裏表紙：北の息吹® イワベンケイ（*Rhodiola rosea*）

国立大学法人評価について

評価担当理事 ^{み かみ} 三上 ^{たかし} 隆



国立大学が2004（平成16）年に法人化されたことにより、大学は様々な評価を受けることになりました。大学の評価には、法人評価（国立大学法人評価委員会による評価）、大学機関別認証評価（文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価）、自己評価（大学の活性化、説明責任のための自主的・自律的な評価）等がありますが、ここでは主に法人評価について紹介します。

国立大学は、毎年度及び中期目標期間の業務の実績について評価を受けることになっており、中期目標期間は6年にも及びます。他の独立行政法人が3～5年であるのに対して長期になっていますが、これは、国立大学法人の教育研究機関という性質によるものです。第1期の評価は2010年に終了し、現在は第2期に入っています。

目標・計画に基づく大学運営

法人化後の各大学は、文部科学大臣が国立大学法人の意見に配慮し定める中期目標に対して、各法人はそれぞれの中期計画を策定し、大学運営を行うことになりました。この中期目標・中期計画は、「教育研究等の質の向上」「業務運営の改善及び効率化」「財務内容の改善」「自己点検・評価及び情報提供」「その他業務運営（施設設備の整備・活用、安全管理、法令順守）」等の事項が記載されています。また、中期目標・中期計画を達成するため、毎年度、具体的な取組を年度計画として作成し、それらを実際に具体化する必要があります。

従って、各法人は自ら策定した年度計画の目標達成を意識する必要があります。大学構成員には、中期目標・中期計画及び年度計画の全体そして自分の職務に関係する部分を必ず確認し、各人が目標・計画に沿った「ミッション」をもって教育研究、業務に努めることが求められます。

第2期中期目標期間における各年度終了時の評価及び同期間の業務実績評価

評価は、各法人の自己点検・評価に基づいて行われます。各年度終了時の評価及び中期目標期間の終了時の評価

は、各法人の年度計画及び中期計画の実施状況等に基づき、中期計画の進捗状況及び中期目標の達成状況を確認し、その結果等を踏まえて各法人の特性に配慮しつつ、中期目標・中期計画の達成に向けた総合的な評価が行われます。

第1期中期目標期間における評価からの大きな変更点は、中期目標期間評価については暫定評価を実施せず、第2期中期目標期間終了後の2016（平成28）年度のみ実施すること、年度評価の「教育研究等の質の向上の状況」については実績報告書の「全体的な状況」欄への総括的な記載のみを求め、年度計画の各記載事項についての進捗状況の記載は必要としないこと等です。

なお、各法人は文部科学省の国立大学法人評価委員会の評価を受けることとなりますが、中期目標期間の業務の実績のうち教育研究の評価は、独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施することになります。

自己点検・評価の在り方

評価はそれまでの実情を反映したものですが、それに終わるのではなく、その結果を次なる計画に反映しなければ実施する意味がありません。本学では、第2期中期目標の「評価の充実に関する目標」の項目において、「評価の結果を教育研究活動及び大学運営の改善等に結びつける組織的なマネジメントサイクルの充実」や「全学的なフォローアップシステムの確立」を掲げており、その取組は、年度終了時の法人評価において高く評価されています。

なお、大学において、計画の策定及び取り組むべき課題の優先順位の明確化には情報やデータ収集・分析が不可欠です。現在の大学の自己点検・評価は、第三者評価を受ける際の実績報告書などの作成の過程で行われる場合が多く、評価のために集められたデータとその分析結果が次の計画策定に十分生かされているとは言い難い状況です。本学においても、各組織の連携を通じて、データ・情報を一元的に集中させ、その効果的な利用を図る仕組みが必要です。

本学職員表彰を実施



被表彰者と佐伯総長ほか列席者

1月29日（火）、総長室において「北海道大学職員表彰」表彰式を行い、関係者列席のもと、佐伯 浩総長から被表彰者に、賞状（盾）及び記念品（メダル）が授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

このたび表彰された方々は、平成24年7月29日（日）積丹町野塚野営場において沖合に流される男性を認めるや身の危険を顧みず尊い人命を救助された農学研究院講師 山田浩之氏、並びに永年にわたり高い技術と優れた開発力によって流水観測用レーダー及び流水・気象観測用ドップラーレーダーの操作・保守・管理に精励された低温科学研究所嘱託職員 福士博樹氏のお二人です。

（総務企画部人事課厚生労務室）

AO入試合格者の発表

平成25年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表を2月12日（火）に行い、11名が合格しました。

昨年12月4日（火）に合格者発表が行われた理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は44名となりました。

（学務部入試課）

平成25年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者	
理学部	物理学科	5	4 (1)	0.8	3 (1)	
	化学科	8	19 (10)	2.4	7 (7)	
	地球惑星科学科	5	17 (6)	3.4	4 (0)	
医学部	医学系	5	6 (2)	1.2	0 (0)	
	保健学系	看護学専攻	7	23 (17)	3.3	7 (5)
		作業療法学専攻	4	21 (16)	5.3	4 (2)
歯学部		5	17 (7)	3.4	5 (3)	
工学部応用理工系 （応用マテリアル工学コース）		4	6 (1)	1.5	0 (0)	
水産学部		20	50 (11)	2.5	14 (3)	
計		63	163 (71)	2.6	44 (21)	

※（ ）内は、道内高校出身者で内数

北海道大学一般入試の志願状況

平成25年度の本学一般入試の志願者は、前期日程6,130名、後期日程4,314名、合計10,444名となり、昨年度と比較すると72名増加し、倍率は4.3倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日(月)・26日(火)、後期日程が3月12日(火)となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

(学務部入試課)

平成25年度北海道大学一般入試志願者数

一般入試

日程	学部・学科等	募集人員	志願者数	倍率	第一段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度倍率			
前期日程	総合入試	文系	100	455	4.6	4.0	332	3.3		
		理系	数学重点選抜群	130	482	3.7	4.0	423	3.3	
			物理重点選抜群	235	775	3.3	4.0	643	2.7	
			化学重点選抜群	235	680	2.9	4.0	628	2.7	
			生物重点選抜群	177	547	3.1	4.0	432	2.4	
			総合科学選抜群	250	703	2.8	4.0	729	2.9	
			計	1,027	3,187	3.1		2,855	2.8	
	学部別入試	文学部	118	385	3.3	4.0	400	3.4		
		教育学部	20	64	3.2	4.0	87	4.4		
		法学部	140	267	1.9	4.0	318	2.3		
		経済学部	140	362	2.6	4.0	428	3.1		
		医学部	医学系	97	346	3.6	3.5	332	3.4	
			保健学系	看護学専攻	60	155	2.6	5.0	135	2.3
				放射線技術科学専攻	28	85	3.0	5.0	87	3.1
				検査技術科学専攻	28	98	3.5	5.0	90	3.2
				理学療法学専攻	13	35	2.7	5.0	45	3.5
				作業療法学専攻	13	54	4.2	5.0	51	3.9
小計	142	427	3.0		408	2.9				
計	239	773	3.2		740	3.1				
歯学部	30	202	6.7	6.0	105	3.5				
獣医学部	20	105	5.3	6.0	115	5.8				
水産学部	105	330	3.1	4.0	330	3.1				
合計		1,939	6,130	3.2		5,710	2.9			
後期日程	文学部	37	286	7.7	6.0	346	9.4			
	教育学部	10	124	12.4	10.0	114	11.4			
	法学部	40	274	6.9	6.0	350	8.8			
	経済学部	20	151	7.6	10.0	243	12.2			
	理学部	数学科	13	130	10.0	6.0	131	10.1		
		物理学科	5	108	21.6	6.0	102	20.4		
		化学科	15	151	10.1	6.0	148	9.9		
		生物科学科 生物学専修分野	10	104	10.4	6.0	76	15.2		
		生物科学科 高分子機能学専修分野	5	78	15.6	6.0	59	11.8		
		地球惑星科学科	5	61	12.2	6.0	86	17.2		
		計	53	632	11.9		602	11.4		
	医学部	保健学系	放射線技術科学専攻	7	49	7.0	6.0	73	10.4	
			検査技術科学専攻	7	65	9.3	6.0	105	15.0	
			理学療法学専攻	4	32	8.0	6.0	42	10.5	
	小計	18	146	8.1		220	12.2			
	歯学部	8	192	24.0	6.0	83	10.4			
	薬学部	24	298	12.4	6.0	303	12.6			
	工学部	応用理工系	34	331	9.7		391	11.5		
		情報エレクトロニクス系	38	278	7.3		306	8.1		
		機械知能工学系	30	321	10.7		267	8.9		
環境社会工学系		53	386	7.3		401	7.6			
計	155	1,316	8.5		1,365	8.8				
農学部	53	425	8.0	6.0	526	9.9				
獣医学部	15	109	7.3	6.0	123	8.2				
水産学部	50	361	7.2	6.0	387	7.7				
合計		483	4,314	8.9		4,662	9.7			
総計		2,422	10,444	4.3		10,372	4.3			

「平成24年度ハラスメント講演会」を開催

2月6日（水）、学术交流会館において、教職員を対象とした平成24年度ハラスメント講演会を開催しました。

この講演会は、ハラスメントの予防・対応・解決に向けた取組を推進するために、教職員にハラスメント問題の重要性を認識してもらうとともに、大学で生じているハラスメントの実態及び課題並びにその対処法などについて、周知・啓発することを目的として開催したものです。

講師には、東京ゆまにて法律事務所

弁護士 井口 博氏をお招きし、大学で起こりうるハラスメントの事例を中心に、壇上において事例の実演を交えながら、ハラスメントの問題点、判断基準、大学の責務及び法律問題などについてわかりやすく解説していただきました。引き続き、昨年度までハラスメント相談専門委員会委員長を務め、本学ハラスメント相談の実務に精通している工学研究院副研究院長 近久武美教授から、近年の本学におけるハラスメント相談件数、相談内容及び予

防・対処法についての講演がありました。

会場からは、多くの質問等が寄せられ、予定時間を超過しての講演会となりました。

なお、講演内容の一部については、本学ホームページ（学内限定）の「新着情報」に動画で配信しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）



井口弁護士の講演



近久教授の講演



実演による事例紹介の様子

平成24年度一般会計経済危機対応・地域活性化予備費（本学関係分）の主要事項、平成24年度補正予算（第1号）案（本学関係分）の主要事項

平成24年度一般会計経済危機対応・地域活性化予備費（本学関係分）の主要事項は、次のとおりです。

事 項	摘 要
経済危機対応・地域活性化予備費 （平成24年11月30日閣議決定） 【施設整備関係】 [施設整備費補助金] ○動物実験施設改修 ○総合研究棟改修（保健科学系） ○自家発電設備整備	（ 5,040㎡） （ 2,650㎡） ※（ ）は改修面積を表す。

平成24年度補正予算（第1号）案（本学関係分）の主要事項は、次のとおりです。

事 項	摘 要
<p>第1号（平成25年1月15日閣議決定）</p> <p>【国立大学法人運営費交付金】 [国家公務員と同等の給与削減相当額] 給与臨時特例法に基づく国家公務員の給与削減と同等の給与削減相当額を平成24年度運営費交付金から減額。</p> <p>[復興関連事業] ○災害拠点病院インフラストラクチャーの強化整備（ライフライン整備） ○防災拠点機能強化整備 ○地震防災対策推進地域内に立地する施設の災害対策整備</p> <p>【設備整備関係】 [設備整備費補助金] ○設備サポートセンター整備に必要な設備 ○患者動態モニタリングシステム ○放射線獣医療先端教育システム</p> <p>[施設整備費補助金] ○グリーンナノ材料解析装置 ○生体機能分子動態解析システム ○RI動物実験利用・管理システム ○分析棟低温保存室等冷却空調設備 ○マルチビーム高時空間デジタル画像処理システム ○心の先端研究に必要な脳機能計測装置（fMRI）の整備 ○生命科学院臨床薬学専攻の設置に伴い必要となる臨床薬学教育システムの整備</p> <p>【施設整備関係】 [施設整備費補助金] ○人獣共通感染症研究拠点施設 ○総合研究棟改修（水産学系）〈国債2-1〉 ○ライフライン再生（暖房設備等） ○総合研究棟Ⅱ（保健学系） ○図書館 ○実習棟（農学系） ○講義棟改修（水産学系） ○防災機能強化（水の確保・EV） ○農学部植物園・博物館 ○農学部（旧東北帝国大学農科大学）第二農場</p>	<p>創成研究機構共用機器管理センター 大学病院 獣医学研究科</p> <p>電子科学研究所 理学研究院 アイソトープ総合センター 低温科学研究所 工学研究院 社会科学実験研究センター</p> <p>生命科学院</p> <p>3,040㎡ 〈(10,830㎡)〉 (4,330㎡)</p> <p>(4,550㎡)</p> <p>1,540㎡</p> <p>4,420㎡</p> <p>(1,810㎡)</p> <p>(573㎡)</p> <p>(2,434㎡)</p> <p>※〈()〉は全体改修面積,()は当年度改修面積を表す。</p>

(財務部主計課)

平成25年度予算政府案（本学関係分）の主要事項

平成25年度予算政府案（本学関係分）の主要事項は、次のとおりです。

事 項	摘 要
【組 織 整 備】 1. 研究所・センター ○部の新設 ◇触媒化学研究センター	実用化基盤技術開発部
【特 別 経 費】 プロジェクト 教育関係共同実施 全国共同利用・共同実施 附属病院機能強化 復興関連事業	17件（3） 3件（2） 5件 1件（1） 3件（3） } 計29件 内訳は次頁のとおり （ ）は新規（9件）で内数
【船舶建造事業】 ○水産学部附属練習船おしよろ丸〈国債2-2〉	代船建造1,600トン
【施設整備事業】 ○アイソトープ総合センター改修〈国債2-1〉 ○学生支援センター改修 （対象施設：スポーツトレーニングセンター） ○環境資源バイオサイエンス研究棟改修 施設整備等事業（PFI事業14-9） ○総合研究棟改修（歯学系）〈国債3-2〉 ○総合研究棟改修（獣医学系）〈国債2-2〉 ○総合研究棟改修（水産学系）〈国債2-2〉 ○総合研究棟（薬学系）〈国債3-2〉 ○総合研究棟（保健科学系）〈国債2-2〉 ○フロンティア応用科学研究拠点施設〈国債2-2〉	<< 2,710㎡>> < 1,900㎡> (1,080㎡) 760㎡ (730㎡) <<(12,940㎡)>> (2,940㎡) << 2,800㎡>> (1,680㎡) <<(10,830㎡)>> (6,500㎡) << 8,130㎡>> < 4,980㎡> 3,250㎡ 2,990㎡ << 3,000㎡>> < 3,700㎡> (1,800㎡) 2,220㎡ <10,430㎡> 6,260㎡
	※ <<()>> は全体改修面積, < > は全体新営面積, () は当年度改修面積を表す。

平成25年度特別経費内訳

【プロジェクト】

事 項	部 局 等 名	事業期間
＜国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実＞ 統合物質創製化学推進事業 －先導的合成の新学術基盤構築と次世代中核研究者の育成－	触媒化学研究センター	H22～H27
＜高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実＞ 高度天文観測ネットワークの構築による先進的な宇宙物理学教育研究の展開 総合若手人材育成事業 －若手博士研究者の社会活躍のためのキャリア意識改革と国際化の推進－ 世界に開かれた低炭素社会形成教育プラットフォームの構築	理学研究院 人材育成本部、工学研究院 公共政策学連携研究部、地球環境科学研究院、(国際本部)、(サステイナブルキャンパス推進本部)	H21～H25 H22～H27 H23～H25
＜大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実＞ 血管を標的とする革新的医薬分子送達法の基盤技術の確立 国民病としてのピロリ菌等の持続性感染による感染癌撲滅を目指した戦略的研究推進事業 ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業 附置研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト 先端医療技術から先端生命科学への展開 －動体追跡技術から動体追跡科学へ－ 自然免疫のナノ領域での機能解明 －先端電子顕微鏡群との異分野融合－ 次世代型クロスカップリング反応が拓く分子構築イノベーション アイヌ・先住民との文化的共生に関する総合的研究 難治性疾患に立ち向かうバイオ融合医薬開発をモデルとする人材育成プラットフォーム構築 次世代ポストゲノム科学を活用した早期診断・予防法の実証的展開研究教育拠点の形成 ソフト&ウェット材料が拓くライフイノベーション －高分子材料科学と再生医学の融合拠点形成－	歯学研究科、薬学研究院、大学病院 遺伝子病制御研究所 薬学研究院、医学研究科、教育学研究院、大学病院 電子科学研究所 医学研究科、工学研究院、先端生命科学研究院、大学病院 創成研究機構 工学研究院 アイヌ・先住民研究センター 薬学研究院 先端生命科学研究院 研究戦略室 (実施主体：先端生命科学研究院)	H21～H25 H21～H25 H22～H26 H22～H27 H23～H27 H24～H27 H24～H27 H25～H29 H25～H29 H25～H29
＜産学連携機能の充実＞ 北海道企業群によるナノ加工技術集積拠点の形成 －ナノインプリントによる生産技術の開発－	創成研究機構	H22～H27
＜設備サポートセンター整備経費＞ 設備サポートセンター整備経費	創成研究機構(共用機器管理センター)	H23～H25
計	17件	

【教育関係共同実施】

事 項	部 局 等 名	事業期間
水産科学・海洋環境科学教育推進のための練習船教育プログラムの開発と中核的拠点形成	水産学部	H24～H27
フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育のための中核的拠点形成	北方生物圏フィールド科学センター	H25～H28
寒流域における海洋生物・生態系の統合的教育のための中核的拠点形成	北方生物圏フィールド科学センター	H25～H28
計	3件	

【全国共同利用・共同実施】

事 項	部 局 等 名	事業期間
低温科学研究の推進 －革新的低温科学の創出と展開－	低温科学研究所	H22～H27
感染癌の先端の共同利用・共同研究の推進	遺伝子病制御研究所	H22～H27
触媒化学研究拠点における公募型共同研究・情報発信事業 －持続可能社会のための触媒化学研究基盤の構築－	触媒化学研究センター	H22～H27
スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	スラブ研究センター	H22～H27
人獣共通感染症リサーチセンターにおける共同研究の推進	人獣共通感染症リサーチセンター	H22～H27
計	5件	

※【プロジェクト】、【教育関係共同実施】、【全国共同利用・共同実施】の事業期間は、本学概算要求上の年限であり、文部科学省の承認を得たものではありません。

【附属病院機能強化】

事 項	部 局 等 名	事業期間
地域医療拠点体制充実支援経費等	大学病院	H25
計	1件	

【復興関連事業】

事 項	部 局 等 名	事業期間
災害拠点病院インフラストラクチャーの強化整備(避難所機能強化)		H25
耐震化改修事業(非構造部材の耐震化)		H25
被災学生に対する授業料等免除分		H25
計	3件	

(財務部主計課)

第8回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催



パネルディスカッションの様子

本学と九州大学は、両大学主催による「九州大学・北海道大学合同活動報告会」を1月12日（土）に東京都千代田区平河町の都市センターホテルで開催し、一般参加者及び両大学OB・OGを含め約150名の参加がありました。

この報告会は、日本の北と南に位置し、先端的な教育研究活動を展開している両大学の活動を広く社会に理解していただくことを目的として毎年開催しており、8回目となる今回は、「国際的に卓越する創造的な人材育成戦略」と題して、両大学のグローバルCOEプログラムにおける先進的な取組及び国際的競争力のある大学づくりを推進している現状について紹介しました。

報告会は、九州大学の有川節夫総長及び本学の佐伯 浩総長による挨拶・大学紹介で始まり、続いて文部科学省土屋定之科学技術・学術政策局長よりご挨拶をいただきました。

引き続き、九州大学 藤木幸夫理事及び本学 上田一郎理事・副学長から、それぞれ研究活動を中心とした1年間の取組が報告された後、研究者4名（九州大学・藤木理事、本学・有村博紀教授、九州大学・君塚信夫教授、本学・宮浦憲夫特任教授）による研究

発表が行われました。

報告会の最後には、九州大学の藤木理事をコーディネーターとして、九州大学 君塚教授、本学 鷺見芳彦特任教授、及び株式会社日立製作所人財統括本部 田宮直彦人事教育部長による「グローバル人材の育成強化」と題したパネルディスカッションが行われました。参加者からは様々な質問が寄せられ、講演者との間で活発な質疑応答が行われました。

また、会場後方では、グローバルCOEプログラム及び人材育成に関するパネル展示を行い、盛会のうちに終了しました。

報告会終了後、交流会を開催し、両大学の盛んな交流を図りました。

なお今後も、6月19日（水）及び11月に東京ステーションコンファレンス（東京都千代田区丸の内）で九大・北大合同フロンティア・セミナーの開催を、平成26年2月1日（土）に都市センターホテルで第9回北海道大学・九州大学合同活動報告会の開催を予定していますので、これらのイベントにも多くの皆様のご参加をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

（研究推進部研究振興企画課）



挨拶する佐伯総長



活動報告する上田理事・副学長



講演中の有村教授



講演中の宮浦特任教授

「若手人材育成シンポジウム “シンフォスター2013”」の開催

1月25日（金）、学术交流会館において「若手人材育成シンポジウム “シンフォスター2013”」を開催しました。

本シンポジウムは、本学において実施している人材育成の取組を集めて、それらの事業実施者間の更なる理解と連携を深め、あわせて学内外に対して本学の人材育成活動をアピールすることを目的として、平成20年度から開催し、今年度で5回目の開催となりました。

今回のシンポジウムでは、「社会から見たグローバルリーダー人材育成」

というテーマのもと、第1部では、文部科学省高等教育局専門教育課長の内藤敏也氏、ポッシュ株式会社人事部門長シニアゼネラルマネージャーの佐藤健氏からの基調講演や、海外経験の豊富な本学OB・OG、あるいは現役学生を招いたパネルディスカッションが行われました。

また、第2部では本学の魅力ある大学教育の取組事例が紹介され、第3部では本学で実施している人材育成事業関連のポスターセッションが、交流会も兼ねて行われ、約25事業のポスター

出展者からのショートトーク発表をはじめ、参加者間で活発な意見交換や情報共有が行われました。

今回のシンポジウム全体では、延べ15機関19名の学外参加者を含めた140名の参加があり、大盛況のうちに終了し、本学独自の一貫した人材育成システムの構築に大きく寄与するものとなりました。今回のシンポジウム開催に当たり、ご配慮・ご協力くださいました皆様に、改めてお礼申し上げます。

（人材育成本部）



佐伯 浩総長の冒頭挨拶



文部科学省 内藤課長の講演



ポッシュ株式会社 佐藤人事部門長の講演



パネルディスカッションの様子



大学教育の取組紹介



ポスターセッションの様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	13,889件	2,552,291,772円
基金累計額（1月31日現在）	教職員の寄附率	30.1%（1,168件／3,878人）

1月のご寄附状況

法人等3社、個人915名の方々から6,383,100円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

タニダ動物病院、社団法人北海道獣医師会、舞鶴動物医療センター

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	筏井 洋之	池田 慎	上田 敦	小内 透	小原 大和	鍵山 直子	金川 眞行
北 裕幸	合田 昌弘	近藤 哲也	近野 敦	齊藤 直樹	齊藤 久	櫻井 雅男	澤嶋 効
首藤 義明	杉原 潔	鈴木 恵二	鈴木仙吉郎	鈴木 宏彦	瀬名波栄潤	高田 礼人	高橋 光彦
高橋 庸夫	土家 琢磨	寺澤 睦	道見 康弘	豊田 和弘	豊田 威信	中野 丘三	中野 良宣
鳴海 俊之	新潟 正	西 武	野口 伸一	野坂 政司	橋本 晃	橋本 俊一	長谷川和子
菱沼 貢	福井 直士	福士 博司	藤田 正夫	牧内 勝哉	松原 敏春	松本 淳	見上 一代
森 千恵子	安本 泰啓	山口 博	山崎 賢司	山崎 真大	吉田 広志	渡辺 正朋	

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

社団法人北海道獣医師会、舞鶴動物医療センター

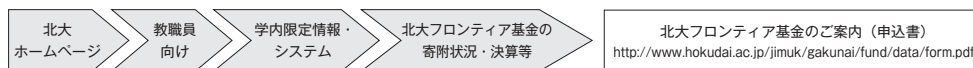
（個人）

鍵山 直子

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

企業研究セミナーを開催



説明会で企業からの説明を熱心に聞く学生

キャリアセンターでは、昨年の12月1日（土）～21日（金）及び1月7日（月）～17日（木）のうち24日間にわたり、「平成24年度北海道大学企業研究セミナー」をクラーク会館において開催しました。

本セミナーは、これから就職活動をはじめ学生が地理的ハンディキャップを少なくした上で、学生が主体的に業界・企業研究を行い、「就職活動へ向けての礎をつくる」ことができるよう、北海道大学連合同窓会と本学とが協力して実施している就職活動支援イベントです。

本年度は495社（昨年度：479社）の企業が参加し、延べ35,652名（昨年度：33,985名）の学生が、企業の人事・採用担当者からの企業や業界に係る説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問等を行っていました。

また、留学生の採用を予定している企業による「留学生相談コーナー」には、210社が参加し、535名の留学生が利用しました。

セミナー終了後には、企業の人事・採用担当者と学生との交流の場として「情報交換会」を開催しました。1月

9日（水）には佐伯 浩総長が参加し、人事・採用担当者と学生の輪に加わって打ち解けた雰囲気の中で懇談しました。

このほか、セミナー期間中に、「グループディスカッション講座」及び「公開模擬面接会」を特別企画として開催しました。特に「公開模擬面接会」では、企業の人事・採用担当者から、「多数の学生の視線が注がれる公開の場で、模擬面接を受けた学生は本番でも自分を出し切れるでしょう」等評価される一方で、「グローバルな環境下で世界の大学生と土俵を同じくするという意識が必要となる時代になっている」、「自身の学問領域の専門用語を使いながらも、エピソードを交えて自分の考え方や実績を明解に伝えることが大切」等のアドバイスがあり、学生はこれから本格化する就職活動での課題をはっきりさせることができました。

本セミナーは、各企業及び諸団体等の協力を得て開催されたものです。関係者の皆様に感謝申し上げます。

（学務部キャリアセンター）



学生に業界・企業説明を行う採用担当者



留学生相談コーナーで企業の人事・採用担当者へ質問する留学生



情報交換会で企業の人事・採用担当者や学生と懇談する佐伯総長



特別企画「公開模擬面接会」で面接を受ける学生

プロジェクトマネージャー育成講座を開講

産学連携本部では、文部科学省が実施する「地域イノベーション戦略支援プログラム」の一環として、学問領域間での連携、異業種間の連携を促す高度な知識とスキルを持った人材を育成することを目的として、プロジェクトマネージャーの育成を行っています。

この度、具体的なプログラムとして「プロジェクトマネージャー育成講座」を開講し、1月15日（火）に第1回目の講義を、札幌駅前にあるアスティ45内、会議研究施設のACUで行いまし

た。今年度は1月から3月にかけて全15回の講義を実施します。

第1回目となる今回は「産学連携の基礎知識」と題し、産学連携本部の荒磯恒久特任教授から、産と学の対話、産学官連携史の概説などについての講義が行われました。産・学・官の各分野より多くの関係者が参加し、当初予定していた20名を大きく超える57名の申込みがあり、関心の高さがうかがえる講義となりました。

今年度は各機関に所属し産学官連携

活動に従事しているコーディネーターや産学官連携に関心を持つ方々を対象に試験的な講義を行い、テーマの洗い出しや講義進行における問題点の確認に重点を置き、次年度以降の本格的な育成活動に活かすこととしています。また、産学官連携に興味を持つ学生に対しても学ぶ場を提供するために、平成26年度以降の大学院共通授業科目への登録も視野に入れた活動も行っていく予定です。

プロジェクトマネージャー育成業務、並びに本講座に興味がある方はお気軽にお問合せください。

◆連絡先：

chiiki-innovation@mcip.hokudai.ac.jp

(産学連携本部)



講義を行う荒磯特任教授



熱心に講義に聞き入る受講者

「食と健康」研究会・部会を開催



会場の様子

1月31日（木）、2月1日（金）の2日間にわたり、創成科学研究棟5階大会議室において、産学連携本部が主催する「食と健康」研究会の第1回部会を開催しました。

第1回目は、「ポリフェノールと健康」、「食の安全性」、「腸内環境と健康」の3部会を開催し、本学研究者をはじめ、食関連の研究をされている学外の研究者、企業の皆様など、延べ123名の方にご参加いただきました。

産学連携本部では、関係の皆様のご協力をいただきながら、昨年11月20日（火）に「食と健康」研究会を立ち上げました。この部会は、研究会の中に4つのテーマによる部会を設け、事業化に向けて産学の研究者が自由に意見交換するための場を提供するという位置づけのものです。1月31日（木）の「ポリフェノールと健康」部会では、産学連携本部の木曾良信TLO部門長

から、ポリフェノールの機能性評価の事例紹介やポリフェノールの新たな機能性の提案がありました。引き続き開催された「食の安全性」部会では、帯広畜産大学動物・食品衛生研究センターの川本恵子准教授、本学水産科学研究院の山崎浩司准教授のお二人から、それぞれ食物に含まれる食中毒などの病原菌を迅速に検出する方法について、検査手法の説明がありました。2月1日（金）の「腸内環境と健康」部会では、「健康をキーワードとした乳酸菌とビフィズス菌の可能性」と題して、腸内で活躍する乳酸菌等の事例紹介や腸内環境の解析法について、説明がありました。各部会とも講演者の発表後には質問が相次ぎ、活発な意見交換がなされ、研究者のみならず企業の皆様も大いに興味を持ち本研究会・部会に参加されていることが、ひしひしと伝わってきました。



質疑応答の様子

なお、当初予定されていた「生理活性脂質と健康」部会は、日程の関係から今回は見送りとなり、次回の部会よりスタートすることとなりました。次回研究会（本年7月頃開催予定）までに引き続き部会を開催し、製品開発に向けての具体的な研究テーマの絞り込みを行っていきます。

（産学連携本部）

■ 部局ニュース

獣医学部で北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程 開講記念式典を挙



記者会見の様子，左から
北海道大学：伊藤学部長，山口佳三理事・副学長，佐伯総長
帯広畜産大学：長澤学長，金山紀久理事，倉園副学長

北海道大学獣医学部と帯広畜産大学畜産学部は，平成24年4月から共同獣医学課程を開設し，同年8月には両大学の学生が共に帯広畜産大学において講義・実習を受講しました。本年4月からは本格的に共同の専門教育が始まることから，開講を記念して，1月23日（水）に獣医学研究科講義棟において記念式典を行いました。

記念式典では，まず，本学 佐伯浩総長，帯広畜産大学 長澤秀行学長の挨拶があり，続いて内藤敏也文部科学省高等教育局専門教育課長より，日本の大学教育改革と獣医学教育改革に

ついて特別講演がありました。その後，帯広畜産大学 倉園久生副学長より，昨年8月に帯広畜産大学で実施した講義・演習について報告があり，続いて本学 伊藤茂男獣医学部長より，今後共同獣医学課程で開講する講義演習について報告がありました。

記念式典には，共同獣医学課程を担当している両大学の教員のほか，支援をお願いしている関係機関の招待者など約100名が参加し，その後開催された祝賀会においては，本格的開講を前に一層の交流を深めました。

また，記念式典途中に行われた記者

会見では，佐伯総長，長澤学長より，それぞれの大学の優位な教育資源を結集して獣医学教育の質を高め，世界的視野を持った獣医師を養成していきたいとの抱負が述べられました。

今後，共同獣医学課程は，食の安全・安心の確保，動物感染症や人獣共通感染症の制圧，飼育動物の疾病などの多様化，獣医師の職域の多様性等に対応でき，かつ国際性を備えた人材を育成し，我が国の獣医学教育のさらなる発展の向上に資することを目指します。

（獣医学研究科・獣医学部）



挨拶する佐伯総長



挨拶する長澤学長

環境科学院・地球環境科学研究院が ユタ大学大学院・ナノ研究所と部局間交流協定を締結



調印式後の記念撮影
(ユタ大学の教職員・大学院生と、本学院・研究院の教員・大学院生)



調印式の様子
(左から、パークス研究担当理事、ポーター ナノ研究所長、
嶋津学院長・研究院長)

1月22日(火)、環境科学院・地球環境科学研究院はアメリカ合衆国ユタ大学大学院・ナノ研究所と部局間交流協定を締結しました。これはナノ科学に関する研究及び学生交換プログラムについて、教育的・学術的な相互交流を推進するというものです。

ユタ大学はユタ州ソルトレイクシティにある州立大学で、1850年に設立されたミシシッピ川以西で最も歴史ある、世界でもトップクラスの総合研究大学です。本研究院教員とのナノ科学に関する29年にもおよぶ国際共同研究

や、本学院博士課程学生の長期派遣に関する連携実績をベースとして、よりアクティブな研究教育交流プログラムを構築すべく、この度、部局間交流協定を締結するに至りました。

ユタ大学本部事務局で行われた調印式には、同大学からトーマス・パークス研究担当理事、マーク・ポーター ナノ研究所長、ドーナ・ホワイト大学院長及びナノ研究所関係者が、本学院・研究院からは嶋津克明環境科学院長・地球環境科学研究院長、小西克明教授、島村道代特任助教、大学院生4

名が出席しました。

また、調印式にさきがけ、21日(月)にはナノ研究所において、本学院大学院生4名とナノ研究所所属の大学院生を中心とした研究交流セッションを開催し、ポーター所長をはじめとするナノ研究所の研究者、及び本院から嶋津学院長・研究院長、小西教授、島村特任助教を交え、活発な学生交流が行われました。

(環境科学院・地球環境科学研究院)



学生研究交流セッションの様子



研究交流セッションでポスター発表する大学院生

スラブ研究センターが新学術領域研究 「ユーラシア地域大国の比較研究」 総括シンポジウムを開催



開会の辞を述べる田畑領域代表

平成20年12月に開始され、スラブ研究センターを中心に行われてきた新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」（領域代表者：教授 田畑伸一郎）は、今年度が最終年度となります。本研究では、ロシア、中国、インドをはじめとするユーラシアの地域大国を学際的、総合的に比較してきました。そこで、これまでの研究成果を総括し、このような研究の今後の可能性について議論するため、総括シンポジウム「ユーラシア地域大国の比較から見える新しい世界像」を1月26日（土）に早稲田大学国際会議場井深大記念ホールで開催しました。

プログラムは3部構成となっており、午前の若手セッションでは、本研究にプロジェクト研究員として参加した若手の研究者が、研究成果を3つの報告として発表しました。午後のセッションでは、本研究において6つ設けられた計画研究から1人ずつが報告しました。以上の9つの報告は、扱う地域から見ても、ディシプリン（学問分野）から見ても、非常に多彩なものとなりましたが、ユーラシア地域大国の比較という視点の有効性を示すことができました。

最後の総括討論「ユーラシア地域大国比較の成果と可能性」では、初めに、司会の天見 慧氏（早稲田大学現代中国研究所）と討論者の小長谷有紀氏（国立民族学博物館）から本領域研究に対する評価や期待が質問をともなう形で提起され、各計画研究の代表者（スラブ研究センターの岩下明裕教授、宇山智彦教授、望月哲男教授など）がそれに答えるという形で進行了。世界の将来像の明確化や学際性の重視など、今後の研究の取りまとめにとっても大変有益な議論ができました。

この総括シンポジウムは、スラブ研

究センターの今年度の冬期シンポジウムを兼ねて開催され、107名の参加がありました。また、早稲田大学現代中国研究所には共催機関として運営面でも多大な支援を受けました。

本研究の成果はミネルヴァ書房から、「シリーズ・ユーラシア地域大国論」全6巻として刊行されます。第1巻、第2巻は今年3月に出版され、その後、夏頃までに順次出版される予定です。

（スラブ研究センター）



総括討論のパネリスト

薬学研究院，医学研究科，教育学研究院の主催で， ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業 シンポジウム「心のいたみ・お腹のいたみ」を開催

薬学研究院，医学研究科，教育学研究院は共同して，文部科学省特別経費「ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業」による研究を，平成22年度より5年間の予定で進めているところです。この度，本研究推進事業の中間報告会として「心のいたみ・お腹のいたみ」と題したシンポジウムを，1月11日(金)に，医学部学友会館「フラテ」において開催しました。

近年，社会的なストレスの増加に伴い，うつ病や心身症などの心の病の増加が社会的にも問題となっています。また，胃腸に原因となる異常が見つ

らないのに，痛みや便通異常が生じる機能性消化管障害も，ストレスがその発生原因のひとつとして考えられています。そのため，これらストレスによる「心」や「お腹」の病に関する研究進展とそれを基盤とした新しい治療薬・治療法の開発は喫緊の課題となっています。

本シンポジウムでは，「ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業」のこれまでの研究成果を報告するとともに，広島大学で「ストレス脆弱性克服プロジェクト」を推進している森信 繁特任教授と，脳腸相関研究の第一線で次々と研究成

果を発表され，平成15年から機能性消化管障害国際ローマⅢ委員会委員，及び平成21年からローマ委員会常設の国際リエゾン委員として国際的にも活躍されている東北大学の福土 審教授をお招きし，心の病とお腹の病に関する最新の研究成果・研究動向についてお話しいただきました。

当日は，50名を超える教員・大学院生・学部生が参加し，大変活発な質疑応答・議論が繰り広げられ，盛会のうちに会を閉じました。

(薬学研究院・薬学部，医学研究科・医学部，教育学院・教育学研究院・教育学部)

ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業 シンポジウム

心のいたみ・お腹のいたみ

平成25年1月11日(金)

午後1時～午後6時(午後12時30分受付開始)

北海道大学医学部学友会館フラテ(札幌市北区北15条西7丁目)

- 第1部 座長:福土 審(東北大学大学院医学研究科)
- 13:20 「痛みによる不快情動生成機構 一負情動ジェネレーターとしての拡張扁桃体の役割」
南 雅文(北海道大学大学院薬学研究院)
 - 14:00 「食欲の制御と心身相関」
武田 宏司(北海道大学大学院薬学研究院)
 - 14:25 「三次元的多様性を鍵とする分子設計に基づくGABAトランスポーター阻害剤の創製研究」
周東 智(北海道大学大学院薬学研究院)
- 第2部 座長:南 雅文(北海道大学大学院薬学研究院)
- 15:10 「正中縫線核から腹側海馬へのセロトニン神経投射と恐怖記憶の想起」
大村 優(北海道大学大学院医学研究科)
 - 15:30 「腸管刺激による不安・不快情動生成における拡張扁桃体の役割」
井手 聡一郎(北海道大学大学院薬学研究院)
 - 15:50 「ドリンクテストを用いた内臓感覚負荷による生理心理学的影響」
豊巻 敦人(北海道大学大学院医学研究科)
- 第3部 座長:井上 猛(北海道大学大学院医学研究科)
- 16:30 「PTSDにみられる恐怖記憶の消去障害に対する新たな治療法の開発 ーヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の応用ー」
森信 繁(広島大学大学院医歯薬学総合研究科)
 - 17:10 「脳腸相関による陰性情動の生成機構」
福土 審(東北大学大学院医学研究科)

プログラム

教育学研究院が研修会 「障害学生支援における基本理念と組織づくり」を開催



講義の様子（左から、要約筆記スクリーン、手話通訳者、金澤先生）



研修会ポスター

2月1日（金）午後4時30分から同6時まで、学術交流会館小講堂において、「障害学生支援における基本理念と組織づくり」と題した研修会を開催し、講師として群馬大学教育学部の金澤貴之准教授をお招きしました。（担当：教育学研究院 准教授 松田康子）
金澤先生は聴覚障害学生支援を専門とした研究者であり、群馬大学障害学生支援室の担当専門教員としても活躍されています。

研修会の講義は、障害者基本法の改正という状況説明から始まり、その理念と組織づくりに関し、実践に根差した説明が行われました。60名ほどの聴

衆の中には、本学教職員をはじめ、他大学で障害学生支援に携わる方や、障害を抱える学生もおり、研修会終了後も講師に語りかける参加者が後を絶たないほど、盛会のうちに幕を閉じることができました。

また、今回の研修会では、情報保障として「要約筆記」と「手話通訳」を外部委託により実施しました。「要約筆記」は4人の連携で、講師の声をパソコン入力によって文字に変換し、プロジェクターを通してスクリーンに映し出すもので、健聴者にとっても有益な情報伝達手段でした。

なお、障害者条約批准に向け、一昨

年、平成23年8月に改正された障害者基本法によって、高等教育における障害学生支援は、善意による実践から障害学生に対する権利保障へと明確に位置付けられました。これは全ての大学において共通するものであり、大きな意味を持つものと、本研修会を通して改めて確認がなされました。

また、そのために何をすべきか、本学での障害学生支援を組織的にどのように展開していくかを考える上でも貴重な研修会となりました。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）

経済学研究科で“学生の起業への意識を変革する！ サムライインキュベート×北海道大学「起業マインド向上講座」”を開催

経済学研究科、地域経済経営ネットワーク研究センター、北海道経済産業局、トーマツベンチャーサポート株式会社主催による、スタートアップ予備軍となる学生の起業意識の向上を支援するための講座を、1月25日（金）午後1時から同2時30分まで、人文・社会科学総合教育研究棟W102教室において開催しました。

講師として、起業支援の分野で著名な株式会社サムライインキュベート代表取締役CEOの榊原健太郎氏を招聘し、榊原氏による講演と本学の学生によるビジネスプラン発表会の2部構成の講座としました。

具体的には、まず榊原氏が支援された起業家の起業に至る物語などを交えて、サムライインキュベートの事業活



講演する（株）サムライインキュベート 榊原氏

動の概要をご説明いただきました。その上で、榊原氏のこれまでのキャリアと今後の展望を基に、起業にかかわらず広くビジネスの世界で成功する際に求められる基本的な意識や姿勢について語っていただきました。

その後、榊原氏への質疑応答を経て、本学の学生3名によるビジネスプラン発表会が行われました。テーマは、報告順に「アパレルショップの口コミサイトの提案」(経済学部4年 佐藤航太さん)、「電子マネーで自身の健康を考える」(理学部4年 川田綾香さん)、「エンジニアの実績をプロデュースする大学」(会計専門職大学院1年 星川尚久さん)でした。各報告について、榊原氏から資金調達や目標設定、事業計画、広報活動といった観点から熱心かつ実践的な講評をいただきました。

参加した学生は、社会的意義は非常に大きいものの、立場上なかなか捉えにくい「起業」という世界の第一線で活躍されている方の生の声に聞き入っていました。また、同年代の学生による高水準のビジネスプランの報告から大いに刺激を受けているようでした。

経済学研究科並びに地域経済経営ネットワーク研究センターは、今後も学生や地域の関係者の方々の内省や実践に寄与するイベントを開催していく予定です。

(経済学研究科・経済学部)



榊原氏の号令で参加者全員「サムライシャウト!」と熱く気合い入れ

農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催

1月11日(金)、農学部大講堂において、農学院第27回留学生主催の新年会を開催しました。今年は6ヶ国の料理が総勢81名により用意され、参加者は教職員・学生を含め322名と過去最高を更新しました。

新年会では、ベトナムの歌、韓国の江南スタイル、中国西域の民族舞踊、獅子舞と太極拳の演舞、最炫民族風など、留学生によるパフォーマンスが30分ほど続きましたが、閉会の挨拶後にも女子留学生3名による飛び入りのダンスが披露され、盛会のうちに終了し

ました。

なお、今回提供された料理は次の通りです。韓国(キムチチヂミ、もち鍋)、ベトナム(フォー：米麺スープ)、ミャンマー(モヒンガー：魚のスープの麺料理)、中国(湯団：ゴマ入り白玉、水餃子)、タイ(チキンのグリーンカレー、カボチャ入りココナッツミルク)、インドネシア(チキンスープ、フィナクルプックウダン：えびせんべい)。

(農学院・農学研究院・農学部)



ベトナムの歌



中国の民族舞踊



韓国の江南スタイル



中国の獅子舞と太極拳の演舞

第10回 脳科学研究教育センターシンポジウム 「脳機能イメージング-fMRIで何がわかるか」を開催



講演者・センター基幹教員の集合写真

1月18日(金)、第10回脳科学研究教育センターシンポジウム「脳機能イメージング-fMRIで何がわかるか」(世話人代表:保健科学研究院 教授 山本 徹)を医学部学生会館「フラテ」ホールで開催しました。脳科学研究教育センターには医学、薬学、理学、工学、保健科学、文学、教育学など学内14部局の約30名が基幹教員として参加しており、脳科学研究の推進と、大学院講義、実習、合宿研修などを柱とした全学教育活動を行っています。(http://www.hokudai.ac.jp/recbs/)

当センターでは毎年、学内外の脳科学研究者を集めてシンポジウムを開催しており、第10回の節目となる今年は、脳のはたらきを画像化する脳機能イメージング法のなかで最も広く用いられているファンクショナルMRI (fMRI)を取り上げ、fMRIの基本原則を発見

された東北福祉大学 小川誠二先生をお招きして行いました。

今回のシンポジウムは、fMRIでどのようなことがわかるか理解を深めていただくことを目的としました。そのため、まずMRIの仕組みや特徴を概説し、fMRIを用いた研究領域の広がりを説明する教育講演を行いました。次の特別講演では、小川先生にMRIの基盤現象であるNMR研究の黎明からfMRIの今後の展望までご講演いただきました。特に、赤血球の基礎的研究からfMRIの基本原則であるBOLD (Blood Oxygenation Level Dependent) 効果発見の経緯について詳細なお話があり、一流の研究者の深い洞察力を垣間見ることができました。

続いて、fMRIを用いて心理学、教育学、言語学など高次な脳機能について研究されている4名の第一線の研究

者による招待講演を行いました。京都大学 高橋英彦先生は、羞恥心、罪悪感、嫉妬などの情動や意思決定について、本学教育学研究院 室橋春光先生と医学研究科 豊巻敦人先生は発達障害について、情報通信研究機構 藤巻則夫先生は、言語機能について講演されました。高橋先生の講演は、「fMRIが示す、他人の不幸は蜜の味」などわかりやすい言葉で聴衆を引きつけ、室橋先生・豊巻先生の講演は、学習障害、ADHD、自閉症などの発達障害についてfMRIによりどのようにアプローチしていくかが示され、藤巻先生の講演では、MEG (脳磁図計)を用いた詳細解析も含め速読などについての興味深い研究成果が紹介されました。このように、fMRIにより切り開かれるヒト脳機能研究の広がりが十分に実感できました。

シンポジウムには、学内の多数の部局や道内外の他大学などから会場(280名収容)の大半を埋める多くの研究者、学生の参加があり、fMRIにより示される脳機能について関心の高さがうかがえました。今回のシンポジウムが参加者の興味を満たすことに留まらず、総合大学である本学において様々な文理融合的研究がfMRIを用いて推進発展することを祈っております。

(脳科学研究教育センター)

プログラム

13:30~13:40	挨拶 脳科学研究教育センター長 吉岡充弘	16:00~16:40	招待講演 2 「発達障害の心理生理的メカニズムを探る」 教育学研究院 教授 室橋春光 医学研究科 特任助教 豊巻敦人 座長:文学研究科 教授 菱谷晋介
13:40~14:10	教育講演「MRIと脳機能イメージング」 保健科学研究院 教授 山本 徹 座長:医学研究科長 玉木長良	16:40~17:20	招待講演 3 「MEGとfMRIを用いた言語脳機能計測」 情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター 藤巻則夫 座長:保健科学研究院 教授 横澤宏一
14:10~15:00	特別講演「fMRIの発明と発展」 東北福祉大学感性福祉研究所 特任教授 小川誠二 座長:情報科学研究科 教授 平田 拓	17:20~17:30	おわりに 脳科学研究教育センター副センター長 渡邊雅彦
15:00~15:40	招待講演 1 「fMRIを用いた社会的情動・意思決定の神経基盤」 京都大学大学院医学研究科 准教授 高橋英彦 座長:文学研究科 教授 亀田達也		

真冬の森の宝物，見つけた！

— 雨龍研究林で「森のたんけん隊2013冬」を開催 —

北方生物圏フィールド科学センターでは、小学生を対象とした「森のたんけん隊2013冬」を1月10日（木）・11日（金）に雨龍研究林（雨竜郡幌加内町母子里）で開催しました。

森のたんけん隊は、地元の名寄市北国博物館並びに幌加内町教育委員会と共同で開催している1泊2日の宿泊体験型野外教育プログラムで、冬休み中の子供たちに本学研究林のフィールドや施設を開放し、楽しく遊びながら自然の営みや森と人間とのかかわりを学ぶことによって、健やかで個性豊かな人格形成と地域交流を促進するための地域連携社会教育事業です。今年の森のたんけん隊には、名寄市と幌加内町から総勢20名の元気な小学生が集まり、大学院生たちがボランティアとして運営をサポートしてくれました。

初日は厳しい寒さにも負けず、初めてカンジキをはいたとは思えないほど元気いっぱい雪の上を駆け回り、森の中に取り付けられたクイズを解きながら樹木の名前を覚えたほか、方位磁石の使い方や雪の温度の計り方、さらには大きな木の肌に触れながら太さや高さの測り方を学びました。



森の木に取り付けられたクイズを解きながら木の特徴を調べる。どんなに濡れていても簡単に燃える樹皮がダケカンバの特徴だ。



沢の向こうのトドマツまでの距離を測る。巻尺で苦労して計った距離も、最新式の距離計を使えばドンピシャリ。



「この木、何の木?」。昔から胃腸薬として利用されてきたキハダの苦味を、折った枝先を舐めて確かめた。「学習は口に苦し…」

休憩の後は、雪原でイグルーとスノーランタン作りに挑みました。イグルー作りでは、雪のブロックを運ぶ係、のこぎりで形を整える係、それを積み上げる係など、みんなで協力して作業しました。また、出来上がったランタンにキャンドルを灯して幻想的な光の世界を楽しみました。この日は夕方から気温がぐんぐん低下して氷点下30度近くになったため、イグルー作りは残念ながら途中で断念しました。



雪のブロックをのこぎりで整形しながら積み上げてイグルー作り。気温が氷点下30度近くまで低下したため、残念ながら途中で退散。

宿舎に戻って夕食を食べた後はペットボトルを使ったアイスクリーム作りに挑戦しました。チョコレート、抹茶、ジャムなど14種類ものメニューの中から何を選ぶかあれこれ迷いましたが、入浴後に食べたアイスはどれも美味しく、子供たちの笑顔があふれました。

2日目は雪上車に乗って森の奥地へ移動し、前日に学んださまざまな森の情報を思い出しながら、方位磁石や巻尺などの7つ道具を使い、巻物の指示を読み解きながら雪の中に埋められた宝箱を探しました。深い雪の中から無事に宝箱を掘り当てた瞬間には、森の

中に歓声がかどましました。お昼は雪原でバーベキューを堪能した後、スノーモービルに乗って真っ白な雪原を駆け巡りました。最後に、「森のたんけん博士」の認定状と手作りのインシリアルプレートを記念に受け取り、2日間の真冬の遊びを締めくくりました。



巻物と7つ道具を持って宝探し。前日に学んだ森の情報を手がかりに、協力しながら森の中を進む。

子供たちは体と心で自然や友達との対話を楽しみ、ちょっぴり遅くなって家に帰りました。「カンジキで雪の上を歩くのが大変だった」、「新しい友達ができた」、「森の中での宝探しは楽しかった」、「スノーモービルにいっぱい乗れた」、「イグルーが完成できなくて残念だった」、「また来年も来たい」などの感想が寄せられ、年末から準備作業に携わった職員の苦勞も吹き飛びました。森のたんけん隊での経験を糧として、自然観察の面白さを学び、友達との交流が今後も広がっていくことを願いながら、今年の森のたんけん隊が終了しました。

（北方生物圏フィールド科学センター）

「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」を開催



鈴木名誉教授、高橋北海道知事との集合写真

総合博物館では、12月8日(土)に、鈴木 章名誉教授と高橋はるみ北海道知事をお迎えして、子ども達に科学への関心を深めてもらうイベント「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」(主催：北海道、北海道大学総合博物館)を開催しました。昨年度3月に続く2度目の開催です。参加したのは、札幌市内の小学校5・6年生と保護者の30組です。会場は、総合博物館2階の実験室であり、鈴木先生が理学部で研究していた部屋のすぐ近くにある古い教室です。

イベントでは、高橋北海道知事と山口佳三理事・副学長の主催者挨拶の後、鈴木先生から科学への関心を広げるこのイベントを楽しんでほしいとお言葉をいただきました。そして、工学研究院 山本靖典准教授の指導のもと、参加児童は各自で鈴木・宮浦クロスカップリングの実験を行いました。実験準備の手袋をつけることに苦労した児童も多くいましたが、鈴木先生や山本先生、司会を務めたミュージアムマイスターで理学部3年の三嶋 渉君と山本大貴君からアドバイスを受けながら、全員が実験を成功させました。

その後、鈴木先生への質問タイムが実施され、児童から「先生のクロスカップリングの特徴は何ですか」、「クロスカップリングの研究にはどれくらい時間がかかりましたか」、「実験は楽しいですか」、「先生はどのような子どもでしたか」などいくつもの質問が寄せられました。これらの質問に対し鈴木先生は、有機ホウ素と有機ハロゲン化物を用いた鈴木・宮浦クロスカップリングの特徴を解説し、クロスカップリングの研究を始めてからノーベル賞の受賞まで30年以上かかった、他の人が行っていない実験を行うのは楽しい、小学生の頃は釣りが好きで、勉強では特に算数が好きであった、などと丁寧に答えられました。そして、今日の話や実験は小学生には少し難しかったかもしれないが、中学・高校で学んでいく化学は決して難しいものではない、参加者の中から私と同じように化学の道に進む人が生まれたら嬉しい。しかし、化学に限らず、哲学でも経済でも文学でも、自分の好きなものを見つけ、それに一生懸命取り組んでほしいと語られました。



参加児童一人ひとりに修了証書を手渡す 鈴木名誉教授

最後に、津曲敏郎総合博物館長が、鈴木先生のお言葉通りに、皆さんも夢中になれるものを見つけてほしい、様々な分野の展示がある博物館にもそのヒントがあるかもしれないと話しました。

サイエンスパークの終了後、司会を務めたミュージアムマイスターの三嶋君と山本君は、参加児童と保護者の方々を対象に、館内のノーベル賞受賞記念展示や恐竜、岩石の展示の解説を行いました。参加児童にとって鈴木先生と過ごした時間も、先生との記念写真も、良い思い出になったのではないのでしょうか。

(総合博物館)

大学文書館で日下大器関係資料を再受贈

1月30日（水）、大学文書館では、日下大器氏（農学部農業生物学科1962年卒業）より、本学在学時代（1958～1962年）の資料等を再びご寄贈いただきました。

受贈資料は、①大学受験記を寄稿した『市立尼崎高等学校新聞』第41号、②大学在学中に支払った下宿代金等の領収証（小南商店等）17点、③旅行記録・農業観察記録を書き留めた大学ノート4点、④農業体験日記2点、⑤下宿窓外の気温観測表、新聞報道にみられる農業生産・気象関連記事を記録した大学ノート3点などです。

日下氏は「入学して1年6ヶ月後、教養課程を終えて、農学部の農業生物学科植物へ進んだ。（略）生物を学ぶ気構えは充分あったが、農業は知らなかった」ことから（『関西エルム新聞』第57号、19頁）、農業を实践・経験してこそ農学の意義を知り得るとの気概を持ち、小川三策（札幌農学校第12期生）が営む農場（札幌市清田区里塚）に農学部3年生であった1960年4月から11月にかけて週4泊住み込み、農業体験を積みました。この体験日記が④です。日記には、農学部学生として常に問題意識を持ちながら、作物病害・

農薬・農業器械学などの参考文献を参照しつつ、牛の飼育、飼料作り、水稲・燕麦・ビート・ジャガイモなどの栽培に取り組む様子が克明に記されています。小川農場の水田に巡回水路を作って灌漑水の温度と水稲生育への影響を実証研究した成果は、その後、学術雑誌への掲載に結びつきました。

大学文書館では、新制大学期の学生の自主的研究・課外活動をあらゆる資料として、受贈資料を大切に保管し、展示等で紹介していきます。

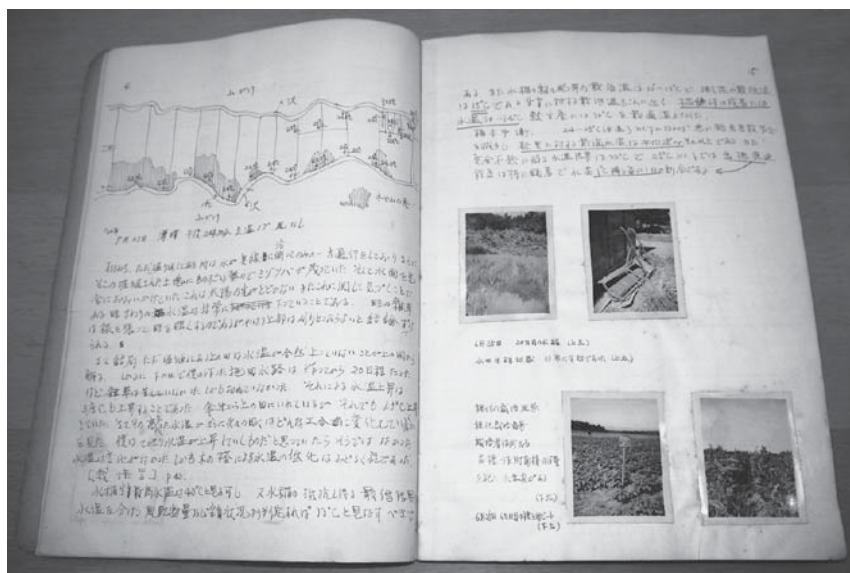
（大学文書館）



小川三策農場（牛舎、1960年初夏）



「ゴロ」を転がして田植え場所に印を付ける日下青年（1960年6月）



巡回水路図が描かれた「農家日記Ⅱ」（1960年7月23日の条）

大学文書館で東晃氏撮影写真を受贈

2月9日(土)、大学文書館では、元工学部教授の東 晃氏(1922-2001)が1954~1959年にかけて札幌市内・本学構内などを撮影したカラーフィルム(スライド形態)94点を受贈しました。

寄贈者は、ご息女である東眞理子氏・東恵美子氏です。東家旧蔵資料を整理されている山崎敏晴氏(中谷宇吉郎没後50年記念事業実行委員会事務局長)が、このカラーフィルムを発見さ

れました。フィルムには、緑色を基調として配色された古河講堂、理学部(現総合博物館)、宮部金吾記念館(植物園内)のほか、「白聖館」と呼ばれた工学部、低温科学研究所、中央講堂など、現存していない建物も往時の姿で写っています。

また、フィルムには、1955年当時の豊平橋や時計台、1954年第5回さっぽろ雪まつりから始まった市民製作の雪

像など、札幌の歴史を物語る写真も含まれています。1950年代当時、日常的な風景写真は白黒写真が一般的であり、大変珍しい写真群です。

大学文書館では、受贈フィルムを大切に保管し、フィルムのデジタル画像を3月より一般公開・利用に供していきます。

(大学文書館)



工学部 (1959年2月)



山下生化学研究室・低温科学研究所 (1959年2月)



クラーク像・中央講堂 (1955年5月)



古河講堂・畜産学教室 (1955年6月)



第一農場 (1954年7月)



宮部金吾記念館 (1955年5月)

■同窓会との交流

恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」



宴も最高潮、肩を組み合って寮歌高唱

1月26日（土）、昭和20年代の予科OBから現役寮生まで約80名の参加者が集い、恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」が札幌市中央区の「氷雪の門」で開催され、本学からは三上 隆理事・副学長をはじめ廣重 力元総長が出席しました。

最初に、恵迪寮同窓会北海道支部総会が行われ、新支部長に内藤春彦氏を選出した後、第2部の「新年寮唱歌始めの会」となり、横山 清恵迪寮同窓会会長から年頭の挨拶があり、次いで来賓を代表して三上理事・副学長が祝辞を述べました。

この後「恵迪寮魂」の拠り所「都ぞ弥生」を全員で斉唱し、横山会長、三上理事・副学長らによる威勢の良い鏡開きの後、前会長の中瀬篤信氏による乾杯の発声がありました。

暫しの懇談をはさんで、現応援団による音頭や太鼓の伴奏で、今年で百十数曲になる寮歌の放歌高唱が始まり、入寮年次別に登壇して、現役寮生と共に延べ二十数曲の寮歌が披露されました。会の途中には、「都ぞ弥生」生誕百年を記念して制作中のドキュメンタリードラマ「清き國ぞとあこがれぬ」に出演した恵迪寮生らが感動の場面を

コントで表現したり、ロケの裏話を紹介したりして会場を大いに沸かせました。長く歌い継がれてきた明治、大正、昭和の名寮歌のほか、平成24年に作られた最新寮歌「快速エアポート」も作詞作曲者が登壇して披露されました。これまでの寮歌には見られない、テンポの速いカントリー風のメロディーで、先輩達の多くは時代の流れに驚いた様子でした。

寮歌高唱の最後には、参加者全員が会場いっぱいに大きな人の輪を作り、札幌農学校校歌「永遠の幸」を高唱しました。続いて「札幌農学校は蝦夷が島～」で始まる「ストームの歌」が始まり、「コチャエ、コチャエ」のかけ声と共にステップを踏むシーンも見られました。

約3時間半にも及んだ会では、会場のあちらこちらでお酒を酌み交わしながら談笑するOBと現役寮生の交流風景が見られ、最後に、9月28日（土）の北海道大学ホームカミングデーに併せて予定されている大寮歌祭での再会を誓い合い、盛会のうちに終了しました。

（総務企画部広報課）



年頭の挨拶をする横山会長



祝辞を述べる三上理事・副学長



鏡開きに参加する三上理事・副学長（左側）



年代別に寮歌高唱

写真提供：恵迪寮同窓会

■お知らせ

過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定いたしました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者
教 理 系	文 系	(教育学研究院) 松本 伊智朗
	理 学 研 究 院	(理学研究院) 羽部 朝男
	工学研究院・情報科学研究科	(工学研究院) 志村 和紀
	上記以外の理系	(農学研究院) 東山 寛
員	医 系	(保健科学研究院) 政氏 伸夫
	附置研究所・全国共同利用施設系	(スラブ研究センター) 家田 修
事 務 系 職 員		(研究推進部) 富塚 直樹
		(附属図書館) 永山 裕子
技 術 系 職 員		(農学研究院) 山川 育生
		(工学研究院) 石川 貞夫
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員		(工学研究院) 石川 貞夫
		(附属図書館) 酒巻 孝子

■レクリエーション

教職員テニス大会の開催

2月2日（土）、第2体育館で職員硬式庭球同好会主催による室内ダブルス大会を開催しました。

参加者は総勢24名で、結果は次の通りです。

男子A級は、平成20年度以降、東日本大震災の影響で中止となった平成22年度を除き、沖田・安達ペアの4連覇となりました。

（職員硬式庭球同好会）

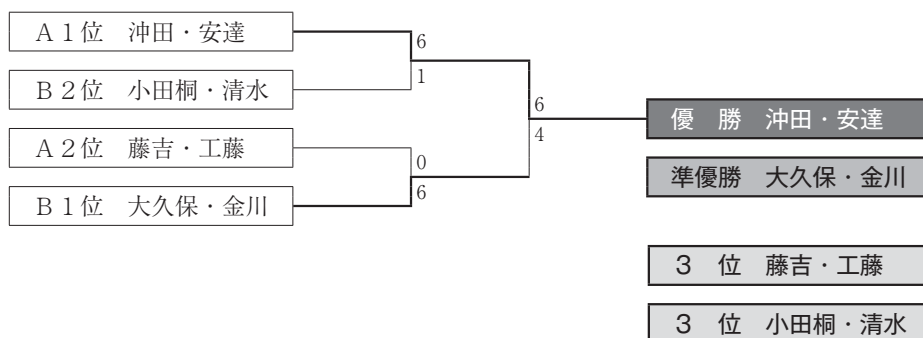
◆男子A級 平成25年2月2日（土） 会場：第2体育館 Aブロック

	沖田 安達	藤吉 工藤	田川 仙北	勝：負 (ゲーム数)
沖田 正彦(事) 安達 孝徳(医)		6 - 4 ○	6 - 2 ○	2 : 0 1
藤吉 康志(低) 工藤 勲(水)	4 - 6 ×		6 - 5 ○	1 : 1 2
田川 諭(事) 仙北 久典(工)	2 - 6 ×	5 - 6 ×		0 : 2 3

Bブロック

	堀口 志村	大久保 金川	小田桐 清水	勝：負 (ゲーム数)
堀口 敬 (工) 志村 和紀 (工)		4 - 6 ×	4 - 6 ×	0 : 2 3
大久保雅史 (病) 金川 眞行 (事)	6 - 4 ○		6 - 1 ○	2 : 0 1
小田桐 誠 (工) 清水 泰貴 (医)	6 - 4 ○	1 - 6 ×		1 : 1 2

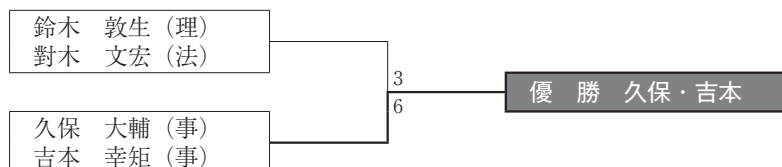
☆決勝トーナメント



・予選リーグは6ゲーム先取ノーアドバンテージ

・決勝トーナメント戦は6ゲームマッチノーアドバンテージ (6ゲームオール7Pタイプブレーク)

◆男子B級 平成25年2月2日(土) 会場：第2体育館



・6ゲーム先取ノーアドバンテージ

◆女子A級 平成25年2月2日(土) 会場：第2体育館

	小野田 坂本	藤井 柏原	古谷 宮下	平館 今崎	勝：負 (ゲーム数)
小野田実由紀 (工) 坂本ゆう子 (歯)		6 - 1 ○	6 - 3 ○	6 - 3 ○	3 : 0 1
藤井恵美子 (法) 柏原 麻美 (病)	1 - 6 ×		4 - 6 ×	5 - 6 ×	0 : 3 4
古谷久美子 (図) 宮下こづえ (獣)	3 - 6 ×	6 - 4 ○		6 - 1 ○	2 : 1 2
平館真希子 (図) 今崎 光佳 (北方)	3 - 6 ×	6 - 5 ○	1 - 6 ×		1 : 2 3

優勝 小野田・坂本

準優勝 古谷・宮下

・6ゲーム先取ノーアドバンテージ

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成25年1月9日）

協議事項・中期目標の変更について

- ・中期計画の変更について
- ・平成25年度年度計画の主な事項について
- ・教育研究施設等の位置付けについて

報告事項・「教員の業績評価システム」の検証について

教育研究評議会（平成25年1月16日）

議 題・中期目標の変更について

報告事項・全学運用教員の中間評価の報告について

- ・寄附分野の更新について
 - ・学生の懲戒解除について
-

経営協議会（平成25年1月22日）

議 題・重要な財産を譲渡する計画について

- ・中期計画の変更について
- ・平25年度年度計画の主な事項について

報告事項・次期総長候補者の選考結果について

- ・「北大フロンティア基金」の寄附受入状況について
- ・平成24年度国立大学法人施設整備費補助事業（予備費使用分）について
- ・平成24年度補正予算（第1号）案について
- ・公的研究費等の不適切な経理処理に係る中間報告について

そ の 他・財務レポート2012について

役員会（平成25年1月22日）

議 案・共同利用・共同研究拠点の認定申請について

役員会（平成25年1月28日）

議 案・中期目標の変更について

- ・重要な財産を譲渡する計画について
- ・中期計画の変更について

報告事項・平成24年度補正予算（第1号）案について

- ・研究費の不正使用等防止に係る検収体制等の強化について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

（平成25年2月1日海大達第9号）

創成研究機構共用機器管理センターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

（平成25年2月1日海大達第10号）

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター規程の一部を改正する規程

（平成25年2月1日海大達第11号）

本学大学院教育学研究院の附属施設である子ども発達臨床研究センターのセンター長について、本学の専任の教授と同等の能力を有する本学の職員をもって充てることができることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

研修名：平成24年度国立大学法人北海道大学事務職員英語研修（グローバル化対応）

開催期間：平成25年1月31日～平成25年2月1日

開催場所：事務局特別会議室

研修目的：大学の教育環境のグローバル化に対応するため、外国人教員及び留学生へのサポート並びに海外連携大学担当者との業務上の十分な対応が行える職員として、高度で実践的な英会話運用能力を身につけさせ、職員の能力向上を推進することを目的とする。



受講風景



会話を楽しむ受講生

(総務企画部人事課)

■ 表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
25.1.23	青島濱海学院（中国）韓方希 学長	両大学の交流の可能性に関する懇談
25.1.30	韓日親善委員会 金正憲 会長	両国の交流に関する懇談
25.1.31	慶熙大学校（韓国）パク・ヨンスン 国際交流処長	両大学の交流に関する懇談



青島濱海学院 韓方希 学長（中央）



韓日親善委員会 金正憲 会長（左から3人目）



慶熙大学校 パク・ヨンスン 国際交流処長
（左から2人目）

(国際本部国際連携課)

■人事

平成25年1月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	笹 倉 弘 理	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター助教

平成25年1月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 大学院理学研究院准教授	橋 省 吾	大学院理学研究院講師
【助教】 大学院歯学研究科助教	佐 藤 真 理	採用

平成25年1月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	鍵 山 明 子 古 木 英 福 惠 真 紀	北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師
【嘱託職員】 (辞職)	橋 詰 伸 一	研究推進部外部資金戦略課

平成25年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 大学院薬学研究院講師	中 川 宏 治	大学院薬学研究院助教
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院薬学研究院助教	津 田 祥 美 伊 藤 元 気	採用 採用

訃報

名誉教授 ^{むらお}村尾 ^{まこと}誠 氏
(享年93歳)

名誉教授 村尾 誠先生は平成24年12月31日にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、大正8年2月13日に静岡県浜松市に生まれ、昭和17年9月東京帝国大学医学部医学科を卒業し、海軍軍医としての勤務を経て、同21年5月東京大学内科学佐々内科、美甘内科、上田内科に勤務され、同24年6月東京大学助手となり、同25年12月医学博士の学位を授与されました。その後、昭和30年12月東京大学講師となり、同31年6月より1年間、アメリカ合衆国(メイヨ・ファウンデーション・フェロー(呼吸生理部門))へ留学されました。帰国後、昭和34年6月に東京大学助教

授を経て、同41年11月に北海道大学医学部内科学第一講座教授に就任され、同57年3月31日の退官まで一貫して内科学の教育、研究、診療に従事されました。

同氏の研究は内科全般、特に呼吸器疾患の基礎、臨床を通じて広範、多岐にわたりましたが、昭和49年厚生省特定疾患「肺線維症」調査研究班初代班長に任命され、我が国の肺線維症研究の幕開けを担ったことは特筆されます。昭和51年には第16回日本胸部疾患学会(現呼吸器学会)総会を札幌で開催され、同52年には日本内科学会総会で「肺気腫と肺線維症」というタイトルで宿題報告を行っています。国立循環器病センター委託研究「肺高血圧症ならびに右心障害の診断の体系化に関する研究」においても班長を務められました。また、第22回老年医学会会長

も務められました。

同氏は、北海道大学医学部結核研究所教授、同応用電気研究所教授、同医学部附属臨床検査技師学校長、同医学部附属看護学校長、同評議員、同医療技術短期大学部設立準備室長、同医療技術短期大学部教授並びに主事を歴任され、医学部、同附属病院及び医療技術短期大学部の運営、発展に尽力されました。これらの研究業績に対し、平成4年11月に勲三等旭日中綬章を受章されています。定年退官後は、帝京大学医学部第二内科教授、静岡県西部浜松医療センター病院長、北海道社会保険中央病院の顧問に就任され、地域医療にも貢献されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(医学研究科・医学部)

名誉教授 ^{ありた}有田 ^{りゅういち}隆一 氏
(享年89歳)



名誉教授 有田隆一氏は、平成25年1月12日に89歳でご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、大正12年7月17日大阪市に生まれ、昭和23年3月京都大学医学部薬学科を卒業、同24年6月京都大学附属病院助手、同32年12月京都大学医学部助教授に昇任、同35年4月京都大学薬学部創設に伴い薬学部助教授に配置

換となり、同40年5月北海道大学薬学部薬剤学講座担当として同学部教授に昇任され、同年7月北海道大学医学部附属病院薬剤部長に併任されました。昭和62年4月停年により退職、同年同月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。更に、昭和62年4月から平成2年3月までは武庫川女子大学薬学部教授、平成2年4月から同5年3月までは同大学大学院薬学研究科教授として私学の振興に尽力されました。

教育面において同氏は、京都大学に奉職して以来、武庫川女子大学を退職するまでの45年間、幾多の学生・大学院生の教育及び研究指導にあたり、かつ、多くの研究者、医療従事者等を養成し、大学研究機関、診療機関をはじめ各界に優秀な人材を送り出しておられます。

研究面において同氏が生物薬剤学の

学問的体系の確立と発展に果たされた役割は大きく、これらは今日の臨床薬理学、薬物治療学及び医療薬学などに取り入れられ、これらの発展の基盤となっています。

学会活動としては、社団法人日本薬学会の評議員、理事並びに日本化学療法学会の評議員を務め、これらの学会の発展に寄与されるとともに、社団法人日本病院薬剤師会の理事を永年務め、病院薬剤部の運営と医薬品の適正使用並びに薬剤師の卒後教育等に尽力されました。

以上のように、長年にわたる功績を称えられ、同氏には平成12年11月3日勲三等旭日中綬章が授与されています。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(北海道大学病院)

名誉教授 ^{やまおか}山岡 ^{いさお}勲 氏
(享年92歳)



名誉教授 山岡 勲氏は、平成25年1月18日に92歳でご逝去されました。先生は、大正9年9月29日札幌に生まれ、昭和19年北海道帝国大学工学部土木学科を卒業、同21年同大学院特別研究生を修了されました。その後、北海道庁及び北海道開発局に奉職され、同局土木試験所水工研究室長を務められました。昭和39年に北海道大学工学部教授に就任され、同59年に同大学を退

官し、名誉教授の称号を授与されました。さらに同年4月からは北海学園大学教授に赴任し同62年に退職されました。

教育面では、約20年の永きにわたり、工学部で水工学関連の授業を担当されるとともに、北見工業大学、室蘭工業大学、八戸工業大学の非常勤講師をも務め、専門分野の教育に広くご尽力されました。本学退官後は、北海学園大学において水理学等の講義を担当されました。

研究面では、一貫して水工学、防災工学の発展にご尽力されました。研究は、河川粗度や蛇行、降雨流出等の基礎学術的内容から、ダム設計運用、寒冷地防災、取水堰等の応用的、実務的研究に至るまで多岐に及んでいます。昭和33年12月から1年間在外研究員として米国内務省開発局の水理実験所に

派遣され、同37年北海道大学から工学博士の学位を授与されました。道南豪雨、石狩洪水、有珠山泥流等の災害発生時には機を失せず学術調査班を組織し、研究成果をまとめ上げ、被災地の防災対策に貢献されました。

学会活動では、土木学会北海道支部長、本部理事を歴任し、平成3年には名誉会員に推挙されました。日本雪氷学会では北海道支部理事、日本建設機械化協会では北海道支部長を務められました。

このような真摯な研究活動と長年の教育貢献は高く評価され、平成7年春に勲三等旭日中綬章を受章されております。

ここに謹んで先生のご功績を称え、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 ^{すずき}鈴木 ^{あきら}翼 氏
(享年71歳)



名誉教授 鈴木 翼氏は、平成25年1月27日に享年71歳でご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和16年10月5日東京都に生まれ、同39年3月に北海道大学工学部合成化学工学科を卒業後、同大学大学院工学研究科に入学し、同41年3月に同修士課程を修了されました。昭和41年4月に北海道大学大学院工学研究

科博士課程に入学、同44年3月に同課程を単位取得退学し、同年4月1日に日本学術振興会奨励研究員に採用されました。その間、昭和44年9月30日に北海道大学大学院工学研究科博士課程工学博士号を授与され、同年12月31日に日本学術振興会奨励研究員を退職、同45年1月1日に北海道大学水産学部講師に採用されました。その後、昭和51年4月に北海道大学水産学部助教授、同57年4月に同大学水産学部教授に昇任され、平成17年3月に定年により北海道大学を退職、同年4月に名誉教授の称号を授与されました。

同氏は、化学工学や水処理工学に関する教育・研究に精励し、多くの重要な業績を挙げられました。水産廃棄物の有効利用を目的として、イカやホタテ貝の内臓からカドミウムを除去する競争吸着法を開発し、養殖飼料への有

効利用に大きく貢献されました。また、平成15年にはタンパク質を素材とした生分解性凝集剤を開発し、特許を取得されました。

また、教育と研究におけるコンピュータの重要性を重視し、情報基盤センター協議員協議員を長く務められるなど、全学的な情報化の推進に貢献されました。

以上のように、同氏は研究者として優れた業績を挙げられ、学術の振興に貢献されたほか、教育者としても優秀な人材を数多く世に送り出し、我が国の高等教育と学術の発展に貢献されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

編集メモ

●新聞報道などで、この“空飛ぶイカ”の写真をご覧になった方も多いのではないのでしょうか。



撮影：水産科学院 村松康太

これは、北方生物圏フィールド科学センターの山本 潤助教らのグループが発表した研究成果によるものであり、ドイツの科学雑誌「Marine Biology」に2月5日付で掲載されました。

イカが勢い良く水を噴射して水面から飛び出す姿は世界各地で目撃されてきましたが、山本助教らは、イカの飛び出しから着水までの一連の様子を連続撮影することに成功し、イカが単に水面から飛び出しているのではなく、その行動を“飛び出し～噴射～滑空～着水”という4つの段階に分類し、高度に発達した「飛行行動」を持つことを明らかにしました。

本研究成果の詳細は、本学ホームページでご覧いただけます。また、多くの独創的な研究成果を掲載していますので、ぜひご覧ください。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/news/>（研究成果プレスリリース）



2011. 5. 20 根室市ノッカマップ

北の息吹 70 イワベンケイ (*Rhodiola rosea*)

岩場に生えるベンケイソウという名前だろうが、道東の海岸では土の上にも普通に生えている。ベンケイソウ科の常として雄花と雌花があり形と色合いが異なるが、ここで取り上げたのは花の美しさからではなく、何本も立ち上がった茎と葉の集団としてのユニークな美しさからである。写真で示したのは花が開く前のもっとも美しい段階のもので、花が開く頃になると

葉と葉の間が間延びして魅力が色あせてしまう。鋸歯状の肉厚の葉が密に重なった様子と青白色の色合いはびっくりするほど美しく、北海道の早春の海岸植物の中では一番の別嬪さんとして、私にとってのお気に入りである。

前理事・副学長 岡田 尚武

北大時報 ② No.707 平成25年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp
北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/